

トホクのスイカ栽培方法

発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～30℃

土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；3年あける

1. 作物特性

スイカは連作障害のでる野菜です。特につる割病という急に萎れて枯れてしまう病気が発生するとその場所では少なくとも5年はスイカを作ることはできません。また十分に熟した果実を外見で見極めるのは難しいので、花が咲いた日を記録して開花後何日目かを確認できるようにすれば失敗は減ります。

2. タネまき・植えつけ

直径10～12cmのポットにタネをまき、発芽したら生育の良いものを残して間引きします。育苗中に肥料が切れることの無いように薄めの液体肥料を定期的に行います。



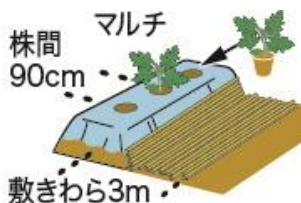
つるを伸ばすので、マルチの端から少なくとも2m位場所を確保しておきましょう

堆肥 2kg
苦土石灰 100g
化成肥料 100g
(1㎡当たり)



3年ほどスイカを作っていない畑を選びます。つるが長く伸びるのでつるを伸ばす場所として2～3m位確保します。

本葉3～4枚で植えつけます。株間は90cmが適当です。



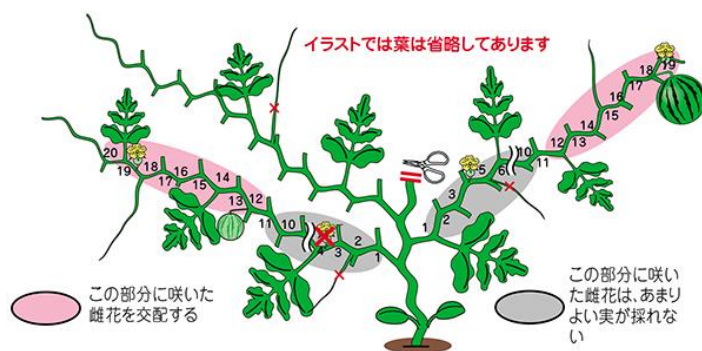
植えつけた後、遅霜の恐れがあるときはビニールトンネルやホットキャップなどを利用して保護します。

3. 栽培管理

つるが伸びてきたら親づるの葉を5枚残してその先を摘心します。その後子づるが伸びてきたら勢いの良い3～4本を伸ばします。



つるがマルチからはみ出るまでに敷きわらなどをし、その上につるを伸ばします。子づるから出る孫づるは早目に摘みとります。



子づるの13～20節に咲いた雌花に早朝、人工授粉します。普通16～20節くらいに着果させると最も良い果実がとれます。授粉した日が分かるように日付ラベルをつけると収穫期の見極めに大変便利です。



株当たりの着果数は小玉スイカの子づる4本仕立てなら3～4果、大玉スイカの子づる4本仕立てなら2果が妥当です。着果しすぎた場合は、野球ボール大になる前に摘果します。



着果したら1株当たり化成肥料50gをつる先に追肥します。果実の下部分は光が当たりにくく、果皮色がつきにくいので10日間隔で果実を少しまわして光が当たるようにします。玉直しすると果皮の色だけでなく、果実内部の果肉の色もきれいに着色し、甘さも果実全体に行き渡ります。

4. 収穫

小玉種では交配日から30～35日前後、大玉種では45日前後が収穫の目安です。授粉日を確認して収穫します。



●栽培例 ●まく時期 ●収穫時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地												
中間地												
暖地												